



赤い羽根・共同募金運動はじまる

10月1日(土)
12月31日(土)

「笑顔咲け！」羽根にたくしたこの思い

赤い羽根・共同募金は、民間の社会福祉事業を支援するため「社会福祉法」に位置づけられ、毎年10月1日から12月31日までの間、全国一斉に展開されています。

この募金は、市内の全小・中学校での児童・生徒への福祉教育などの取り組みや各地域の福祉会、障がい児・者への福祉事業に使われています。今年もみなさんのご理解とご協力をお願いします。

たすけあいの心

日本で共同募金運動が始まって60年以上が過ぎました。この間、社会経済状況も急激な変化を見せ、人々の生活も意識も変わってきました。共同募金は、人々がともに生きていこうという「たすけあいの心」に支えられ、人々の幸せを願ってともに歩んできました。

平成22年度の実績額は、**1,278万8,614円**

自治会や町内会など地域住民のみなさんの協力を得て各世帯にお願いする「戸別募金」をはじめ、市役所、学校の職員、各福祉関係団体を対象に図書カードなどの資材を活用する職域募金、学校や病院、公共施設、事業所などに募金箱を設置するなど、いろいろな方法でお願いしています。

平成22年度、みなさんのご協力で1,278万8,614円の募金が集まりました。ありがとうございます。

東日本大震災への支援



www.akaihane.or.jp
赤い羽根データベース「はねっと」をご覧ください

都道府県共同募金会で



社協だより

136号

平成23年10月1日

発行
社会福祉法人
宗像市社会福祉協議会
〒811-3437 宗像市久原180
メイトム宗像2階
TEL 0940-37-1300

いました。

平成23年度募金の使いみち

平成22年度に宗像市で集められた募金は、全て福岡県共同募金会へ送金し、配分委員会などの審査の後、平成23年度に、社会福祉協議会を含む各申請団体などに配分されました。平成22年度に集まった募金は(表1)「平成23年度共同募金の使いみち」のように有効に活用されています。共同募金は、募金をした地域で生きる寄付金です。

は毎年、災害準備金を積み立てています。

今回の大震災は、被害が大規模で広範囲に及んでいるため、全国の共同募金会から一定額を拠出し、中央共同募金会が運用、主に被災地でボランティアの受け入れなどを調整する「災害ボランティアセンター」の立ち上げ費用や活動にあてられています。

共同募金は計画募金

共同募金は、募金が集まってから使いみちを決める募金ではありません。

事前に地域福祉のための使いみちの計画を立てます。この使いみちの計画に必要な額が「目標額」になります。

平成23年度の募金目標額

本年度の「目標額」は、昨年度実績と同額の1,278万8,614円です。

この目標額を達成することで(表1)「平成23年度の使いみち」のような事業・活動を平成24年度も安定、継続して実施することが出来ます。



子どもまつりでの募金の呼びかけ

1世帯700円の目安額

市全体の「目標額」は1,278万8,614円ですが、「1世帯ではどれだけの金額を協力したらいいのか」ということが分かりにくいため、「1世帯700円を目安に協力していただく」と、計画されている事業が実施できます」と目安額をお知らせすることにしています。

この目安額を示すことが強制と受け取られがちですが、決してそうではありません。

多くの人に支えられている共同募金

(表2)「共同募金実績額の推移」をみると、戸別募金(各世帯からの募金)が共同募金全体の約9割を占め、市内の多く

せん。募金目標額を達成するためにお願いする「目安」ですので、みなさんのできる範囲内でのご協力をお願いします。

また、地域のいろいろな場面で、自治会長や組長、事業所や公共施設、学校の先生や児童・生徒のみなさんからの多くの支えで成り立っています。みなさんの心遣いが、地域福祉に大きく活用されています。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

(表1)

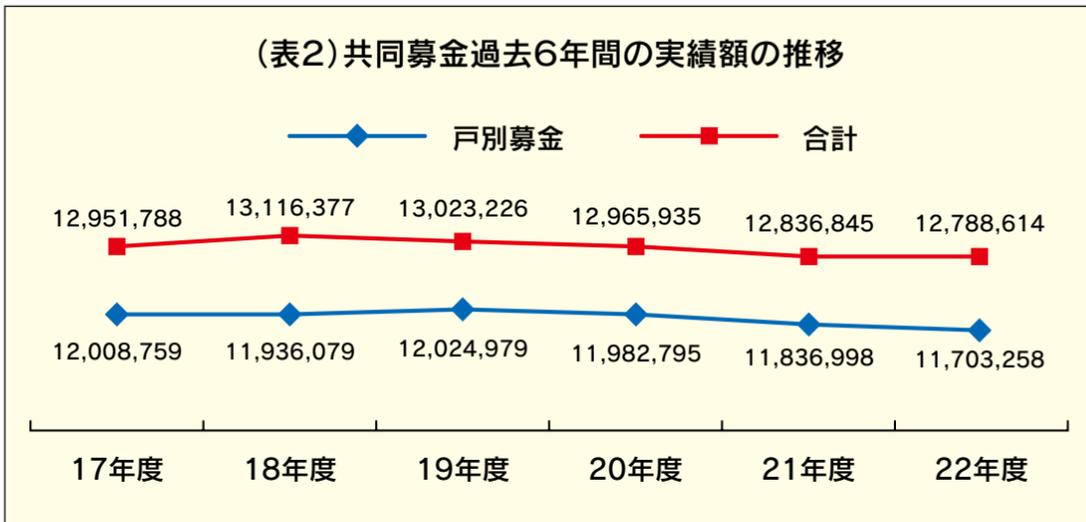
平成23年度

共同募金の使いみち

平成22年度の実績額は、1,278万8,614円でした。この募金は平成23年度、下記のような事業に活用されています。ありがとうございました。

項目	金額
高齢者の福祉 ☆在宅介護者の会への支援 ☆小地域ネットワーク活動助成金	450,000円
児童・青少年の福祉 ☆福祉教育読本「ともに生きる」の活用 ☆福祉教育推進校(園)指定事業 ☆地域福祉文庫連絡協議会活動の支援	1,417,000円
障がい児・者の福祉 ☆身体障害者福祉協会への支援 ☆手話講習会助成金 ☆声の広報配布事業 ☆おもちゃ図書館運営支援など	1,742,000円
母子・寡婦福祉 ☆母子・寡婦福祉会への支援	295,000円
県内の福祉施設や災害準備金 ☆県内全域を対象とした社会福祉施設や福祉団体に ☆災害準備金などに	3,943,104円
福祉会活動の支援に ☆地域住民の自主的な地域福祉活動	2,965,000円
ボランティア活動に ☆福祉ボランティア活動連絡協議会への支援 ☆大島地区ボランティア団体助成金など	567,000円
情報提供・啓発活動に ☆社協だよりの発行	639,300円
共同募金の事務費に ☆チラシの作成、資材の購入など	770,210円

(表2) 共同募金過去6年間の実績額の推移



共同募金の配分活用

赤い羽根共同募金による助成に感謝



自治会をはじめ、住民相互の助け合いで集められた共同募金に感謝を申し上げます。

吉武地区福祉会会長 矢野 邦彦

吉武地区の多くは昔ながらの近所づきあいが残る田園地域です。地区福祉会は昭和63年に発足、平成15年には地区内を順番に訪問して開催する出張型のサロン(すみれサロン)を開始し、現在も続いています。平成14年にコミュニティ・センターができてからは、地域全体の行事はコミュニティ、小地域ごとのサロンなどは福祉会が中心となってお互い協力し合いながら地域福祉事業をすすめてまいりました。共同募金より配分されました財源は、すみれサロン以外にも子どもと高齢者のふれあい活動や、世代間交流事業、ひとり暮らしの高齢者を対象にしたバスハイク、住民を対象にした福祉講演会、ボランティア育成事業などに活用しています。

今年も福祉会ができて23年、サロン活動を始めて8年を迎えます。定期的に活動を実施するとともに、新たなボランティアの育成や自治会長・民生委員児童委員の人たちと連携しながら、少子高齢化する地域を見守り、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。福祉活動は地道な活動の継続です。共同募金からの支援金を生かして、今後とも地域での福祉教育・福祉活動を続けてまいりますので、みなさまのご協力とご理解をお願いいたします。

絵本の楽しさを届ける文庫活動



宗像市地域福祉文庫連絡協議会(以下、「文庫連」)は、0歳から高齢者まで市内のみなさんに絵本の楽しさを広めることを目的に活動しています。

宗像市地域福祉文庫連絡協議会会長 逸見 清美

現在5つの文庫(自由ヶ丘文庫、くまの文庫、おひさま文庫、おいでおいで文庫、仲よし文庫)が、それぞれの地域を拠点に絵本の貸し出しや読み聞かせなどを行い、絵本の魅力を伝えています。

5つの文庫で構成する文庫連では、市や県で開催している研修会などにも積極的に参加し、会員の資質の向上を図っています。

また、子育てサロンや高齢者、障がい者の方の支援をしているボランティア、子育て中の保護者を対象とした講演会も開催しています。このような活動は、多くの方々の善意に支えられ、集められた、赤い羽根共同募金の配分で、より充実したものになっています。ここに心から深く感謝申し上げます。

みなさんが絵本を通してふれあい、楽しく本に親しんでいただくお手伝いが少しでもできればという気持ちを込めて微力ながら頑張っています。これからもご支援、ご協力よろしくお願ひします。

宗像市福祉教育セミナー

メイトム宗像で8月18日、第7回宗像市福祉教育セミナーを開催しました。このセミナーには、学校関係者、民生委員・児童委員、福祉関係者、ボランティアら202人が参加しました。筑紫女学園大学講師の江玉睦美さんが講演。その後、分科会に分かれ福祉体験や交流学習を実施しました。

◆基調講演「福祉のまちづくりと福祉教育」江玉睦美

教育は人として生きていくために必要なものを身につけるためのもの。一方、福祉は人が人として、よりよく生きていくために必要なもの。どちらも人間形成に欠かせません。『まちづくりは人づくり』と言うように、福祉教育を通して個人が形成され、その個人が集まって集団(地域・まち)がつけられます。集団の中で、自分で選択し決定する力や実践・活用する力を学ぶことで、弱者と強者の関係ではなく、一人ひとりの人間としてつながる『ともに生きること』の大切さに気付くことができます。現代社会は、少子化・地域社会における連帯感の希薄化が進み、これまで家族や地域の中で自然になされていた日常の福祉教育がなくなりつつあります。また『脱ゆとり教育』で学校において福祉教育を担ってきた『総合学習の時間』が少なくなっています。そのような中では、人間教育として福祉教育の必要性を見つめなおし、学校教育にカリキュラムとして意図的・計画的に福祉教育を組み込んで展開していくことが大切。さらに、子どもたち以外の人に対する福祉教育として、学校・家庭・地域がお互いに『教える・学ぶ』の役割を交代しながら学習を進めることが重要です。今ある『つながり』を意識するための方法としては実際に書いてみるのが大切です。家族や近所の『人』『物』『場所』など、自分と関係する存在を書き出して大切な順や関係の深い順につないでみることで、自分がその中で生きていることを意識することができます。



多くの参加者があった同セミナー

参加者からは「書くことで意識するという事は印象的でした」や「福祉と教育の概念が少し理解できた」などの感想が寄せられました。

◆福祉体験・交流学習

- 分科会では、
- ①視覚障がいガイド体験 ②高齢者疑似体験
- ③車イス体験 ④手話体験
- ⑤障がい当事者による講話・交流会

これらの体験学習や交流会は、市内で活動している各ボランティアグループや市内近郊に住む当事者のみなさんの協力で実施しました。

学習後に、「誰でも障がい者になる可能性があることも分かりました」「災害時の障がい者へのケアをどうするべきかが重要であることを感じました」「体験して初めて分かる事が多かったです」などたくさんの感想が寄せられるとともに、「参考になった」との回答が多くありました。

また、「関係者だけでなくもっと一般市民にも広く周知して参加を募るべき」などの意見も寄せられ、今後につながるセミナーとなりました。



視覚障がいガイド体験で階段の下りをガイド

市母子寡婦福祉会 バスハイク参加者募集中!

市母子寡婦福祉会が、市内在住の母子家庭の親子を対象にバスハイクを開催します。今年はハウステンボスに行きます。あなたも、母子家庭の仲間と親子で楽しいひとときを一緒に過ごしてみませんか。



昨年は食品サンプル作製会社で本物そっくりの「パフェ」を作りました。今年はハウステンボスに行きますよ!

- 日程 10月30日(日)
- 行先 ハウステンボス(長崎県佐世保市)
- 対象 市内在住の母子家庭の親子
- 参加費
- ▽会員=1人500円
- ▽非会員=1人800円
- 定員 抽選で30人
- 申込方法
- 10月13日(木)までに市社会福祉協議会へ電話(37)1300で申し込む

～一人で悩まないで仲間になってください～

母子家庭や寡婦家庭には、苦労や悩みを抱えているお母さんが多いと思います。

会では、このような悩みを少しでも和らげ、同じ悩みを持つ者同士の交流・情報交換会(サロン活動)や研修会、会員や家族との交流事業(一日バスハイク)などを実施しています。

会では、「母子や寡婦家庭の悩みや苦労は、一人で悩まず、抱え込まず、仲間と語り合い、分かち合い、お互い支えあいましょう」をテーマに活動しています。

会には、いつでも入会することができます。会の活動に関心がある、仲間が欲しいと思っている母子家庭や寡婦家庭のお母さんは、ぜひ私たちの仲間になってください。入会の申し込み、会の問い合わせは、市社会福祉協議会まで。

健康意識の高まりを感じたミニまつり

大島福祉センター(ふれ愛センター)で、7月30日「第6回健康・福祉ミニまつり」が開催されました。福祉への関心と健康意識の啓発を目的に取り組んできた「ミニまつり」。今年もたくさんの来場者がありました。今回初めての企画として、島内で医療に携わっている2人の医師が健康講座を担当しました。大島診療所医師による「熱中症予防について」そして歯科医師の「舌のはなし」という内容でした。



分かりやすく丁寧な説明に、参加者から「来年も!」との声がありました。

また介護老人保健施設「よつづか」からは、リハビリ担当の指導員らが「頼れる助っ人」として毎年協力してくれます。今年の「お茶の間筋トレコーナー」では「玄米ニギニギ体操」を指導してくれました。

来年も多くのボランティアと力を合わせて、島のみなさんに喜んでもらえる「ミニまつり」にしたいと思っています。



胸の位置でしっかりとニギニギしていただき!

南郷地区で地域福祉活動計画の策定始まる!

南郷地区で、住民主体で地域福祉活動をしていくための計画を策定しています。

その第1回策定委員会(委員長・松本信義さん)が7月23日に開催されました。

策定委員会は、地区の区長会、民生委員・児童委員、老人クラブ、福祉協力員、食生活改善推進会、コミュニティ運営協議会から選出された13人で構成。策定委員会は現在、グループワーク形式で進められ、今後の南郷地区の良いところを残していくためにどうしたらいいか。また、課題はどうしたら改善できるかを委員が知恵を絞って議論しています。

この計画は平成24年度から5カ年にわたって進められます。

市社会福祉協議会は、毎年、各地区福祉会に呼び掛け、地区別に計画の策定を支援しています。南郷は、市内では3番目の取り組みになります。



地区の良いところ、悪いところを分類中



意見交換が盛んです



班で話し合ったことを発表

コミュニティ運営協議会健康福祉部会と地区福祉会とが一体化しているという特徴を持つ南郷地区。

今後の南郷地区が計画を実行し、住民同士のつながりを守る住みよい地域になるよう応援していきます。

「自動販売機は使いづらいね、低い所に押しボタンがあったらいいな」と車イスとアイマスクを使った疑似体験で、障がいのある人の日常生活を体験しました。また、北九州市にある施設を訪ね、海や大気汚染状況を目の当たりにし、「便利



使いやすいトイレについて学習

「自動販売機は使いづらいね、低い所に押しボタンがあったらいいな」と車イスとアイマスクを使った疑似体験で、障がいのある人の日常生活を体験しました。また、北九州市にある施設を訪ね、海や大気汚染状況を目の当たりにし、「便利

「自動販売機は使いづらいね、低い所に押しボタンがあったらいいな」と車イスとアイマスクを使った疑似体験で、障がいのある人の日常生活を体験しました。また、北九州市にある施設を訪ね、海や大気汚染状況を目の当たりにし、「便利

ボランティアセンター通信

日曜日、第1土曜日、祝日を除く午前8時30分〜午後5時
☎(37)4100 ファックス☎(37)4101

みんなが幸せに暮らせる「まち」を目標に
「ジュニアボランティアスクール」から



ボタンに届きません

「自動販売機は使いづらいね、低い所に押しボタンがあったらいいな」と車イスとアイマスクを使った疑似体験で、障がいのある人の日常生活を体験しました。また、北九州市にある施設を訪ね、海や大気汚染状況を目の当たりにし、「便利

「自動販売機は使いづらいね、低い所に押しボタンがあったらいいな」と車イスとアイマスクを使った疑似体験で、障がいのある人の日常生活を体験しました。また、北九州市にある施設を訪ね、海や大気汚染状況を目の当たりにし、「便利

ほんのひととき、介護の手を休めてリフレッシュしませんか。

～在宅介護者一泊リフレッシュセミナー～

市内在住で、在宅介護をしている人を対象に「在宅介護者一泊リフレッシュセミナー」を開催します。

このセミナーは、在宅介護者のリフレッシュと学習会(個別相談)を兼ね、1泊で実施します。介護や介護保険などに詳しい市社会福祉協議会職員や在宅介護者の会「ひまわり」の役員も同行します。

あなたも介護の手を休めて、介護や介護保険に関する学習や相談を通して、同じ介護者との楽しいひとときを一緒に過ごしてみませんか。

- 主催 宗像市、市社会福祉協議会
- 実施日 10月28日(金)～同29日(土)
- 対象 市内在住で、在宅介護をしている人
- 先行・宿泊地 山口県長門市湯本温泉(予定)
- 参加費 1人5,000円 ●募集人員 抽選で30人
- 申込方法 10月13日(木)までに市社会福祉協議会☎(37)1300へ電話で申し込む

「ボランティア入門講座」参加者募集!

ボランティア活動に興味のある人を対象に開催。今年、身近な「食」にスポットを当てています。何ができるか、一緒に考えてみませんか?お気軽に参加してください。

●日時 11月9日(水) 午前9時45分〜午後4時(予定)

●受付 午前9時15分

●場所 メイトム宗像 結工房

●対象 ボランティア活動を始めてみたい人や本講座に興味のある人

●定員 先着20人

●持参品 筆記用具、弁当、飲み物

●参加費 300円(保険代他)

●申込締切日 11月1日(火)

●申込・問い合わせ先 同センター

*第1土曜日と日曜日・祝日の申し込みは、FAX(37)4101か、メールvnet@city.munakata.fukuoka.jpで受付

●スケジュール予定(左記参照)

午前 12:30~13:15

★開講式
★ボランティアについて
★「食」について考えよう

午後

★「食」の情報について知ろう
★自分にできるボランティア活動を考えよう
★閉講式

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

宗像市久原180番地 メイトム宗像内
宗像市神湊118番地4 ゆづりづらざ内
大島支所 宗像市大島1809番地32 ふれ愛センター内

☎(37)13000
☎(34)6008
☎(72)2294

ホームページアドレス <http://syakyo.munakata.com/>
メールアドレス info@syakyo.munakata.com

寄付 ありがとうございます

【香典返し】(敬称略)

- ・(故)安部恒喜 (日の里)
- ・(故)秋山植弘 (武丸)
- ・(故)内田良平 (自由ヶ丘)
- ・(故)八尋虎雄 (池浦)
- ・(故)中嶋陳也(自由ヶ丘西町) (赤間)
- ・(故)村上昭信 (田熊)
- ・(故)田中隆二 (日の里)
- ・(故)松本高 (光岡)
- ・(故)吉武一巳 (原町)
- ・清水熊雄 (牟田尻)
- ・(故)佐藤武子 (大島)
- ・次郎丸健作 (大井台)
- ・下村康範 (陵厳寺)
- ・(故)目原ヒサエ (大島)
- ・(故)荒木マツ子 (田熊)
- ・(故)伊藤信之(ひかりヶ丘)
- ・(故)呉羽昌次 (赤間)
- ・(故)金丸孝夫 (村山田)
- ・(故)小田義光 (池田)
- ・(二般寄付)(敬称略)
- ・(故)船越保男 (初盆寄付・大島)

(平成23年8月31日受付分まで)

社会福祉協議会では、随時寄付を受け付けています。地域福祉の推進のために、ご協力をよろしくお願ひします。

お問い合わせ・申込先同センター

☎(34)2411
☎(34)2422

ファックス☎(34)2422

障害者生活支援センター

土・日曜日、祝日を除く 午前8時30分〜午後5時
☎(34)2411 ファックス☎(34)2422
メールアドレス sawo9180@hkg.odn.ne.jp

電車に乗って出かけてよう

同センターでは、公共交通機関を利用した外出行事の参加者を募集します。

目的は、門司港レトロです。

今回は、電車の時刻を自分たちで調べたり、現地での見学場所や昼食の方法などもグループごとに話し合っ決めていきます。

ピアサポーター(障がいのある相談員)やボランティアと一緒に計画を立て、楽しい1日にしましょう。

詳しい内容や行程は、同センターに問い合わせ

●日時 10月30日(日) 午前9時30分〜午後3時30分(予定)

*荒天時は11月6日(日)に延期

●グループごとの話し合い日時 10月24日(月) 午前10時30分〜正午

*希望者のみ

●対象 障がいのある人

●定員 先着20人

●参加費 交通費、昼食代など実費負担

●申込締切日 10月14日(金)